～2012 富士宮地区労福協～
役員視察研修の報告について

■視察研修目的

今回は「社会貢献」をテーマに東日本大震災で被災された福島県いわき市を訪問し、里山の再生活動の実体験や被災地の現状を視察することで、社会貢献や地域貢献について参加役員にその趣旨や意義を充分に理解いただきたい。また、現在行っているエコキャップ活動のフィードバックとして、収集したものがどのように再生活用されていくのかを見学し、地域における今後の活動の動機づけや役員の知識向上を得ることを目的として実施しました。

■視察日程と参加者

◇２０１２年１０月１９日（金）～１０月２１日（日）の３日間
◇富士宮地区労福協役員８名が参加

■視察行程

◇10/19（金）移動（富士宮～埼玉県春日井市～福島県いわき市）
◇10/19（金）エコキャップ再生工場の見学（埼玉県春日井市：進栄化成株式会社）
◇10/20（土）里山の再生活動（いわき市林業研修センター湯の岳山荘）
◇10/20（土）被災地の視察訪問（いわき市久之浜地区）
◇10/21（日）移動（福島県いわき市～富士宮）

■参加役員から視察にあたりひと言

富士宮労福協役職	所属単組・役職	氏　　名
会長	テルモ労組富士宮支部・支部長	小林　純一
エコキャップ運動は世の中的には一般的だが、それがなぜ８００個で２０円となりポリオワクチンとしてアフリカの子供に貢献できるのかの流れが理解できていない、また福島の事情もマスメディアからの一方的な情報であり、何が本当であり、自分が行くことで何を感じるのか。知らないことを知り、感じることができる視察にしたい。その体験を会員へ伝えられるようにコンシェルジュの役割を果たしていきたい。		

副会長	日本プラスト労組・執行委員長	和田　安弘
視察研修は、見聞を広めるいい機会であり今回も良い経験にしたいと思います。		
副会長（代理参加）	富士宮市職員組合・書記長	佐野　貴明
震災後初めて東北に行くので、この目でしっかりと状況を見て帰りたい。		
事務局長	富士フイルム労組・副中央執行委員長	篠原　秋利
事務局長として、参加者の安全確保（長時間移動・慣れないボランティア活動）を優先に行動する。実施後過去からの労福協社会貢献活動をドキュメントとしてまとめ、会員へのＰＲと教宣に結びつける。		
幹事	富士フイルム労組富士宮支部・支部長	米山　文雄
被災地の現状を見て、体験し、今一番何が必要かを知って、周囲の人に伝えていきたい。		
幹事	ニッピ労組・中央執行委員長	飯室　憲一
震災ボランティア初参加ですが、趣味が登山なので、防風林再生活動は期待に応えられる様にがんばります。		
幹事	王子エフテックス芝川支部・書記長	石川　昌史
防風林再生活動や今の被災地を自分の体で体験して、自分の出来ることを少しでも知りたい。		
事務局次長	ろうきん富士宮支店・支店長	富田　忍
社会貢献活動について身をもって体験し、多くの仲間に伝えたい、そして広めていきたい。エコキャップの再生工場見学は非常に楽しみです。		

視察レポート①　エコキャップ再生工場の見学

１９日の視察初日は埼玉県春日部市にある進栄化成株式会社を訪問しました。同社はプラスチック再生原料の製造販売を行っており、私達富士宮地区労福協が現在行っているエコキャップ活動がその後どのような形で再利用されているのかを確かめることを目的にその製造過程を見学させていただきました。

まずは埼玉第二工場へ。こちらはエコキャップの収集保管、洗浄、細断、仕分けを行っています。工場１階では手作業による仕分けと細断をしており、水を使って浮き沈みでキャップのプラスチック部分とボトル本体とを分別する工夫には感服しました。仕分け作業では金属や規定サイズでないキャップ、中には石なども混入していることもあるようで、分別におけるモラルを遵守していくことが大切であり、私達労福協でも収集の際、今一度会員への注意喚起の必要性を感じました。

いざ第二工場へ！

各地から収集されたエコキャップ！

まずは手で仕分けを！

エコキャップの裁断

裁断したものを運搬

水で洗浄

これで仕込みが完了です！

分別をしっかりやらねば！

ムムム。。。

スゴイ！

工場２階には、最新鋭のキャップ分別機械があり、こちらは機械が瞬時に色と原料を判断し、オートメーションで仕分けが行われます。同工場では１日あたり約６トンのエコキャップが収集されており、効率的な処理が求められています。

最新鋭の分別再生マシーン！色や現材料も判断し、オートメーションでリサイクル原料を製造します！

次に第一工場へ。こちらは細断、分別されたエコキャップを２００度超える溶解装置で溶かして、色付けしたものをスティック状に細く固めてカットし、プラスチック加工の原材料として製品化する工程を担っています。外にはこちらの原材料を使って製造した自動車室内部品の不良品を再び回収したものが多数積み上げており、リサイクルの徹底が図られていました。

次に第一工場へ！

業者の不良品を更にリサイクル！

この機械でエコキャップを溶解！

溶解した原料をスティック状に！

着色してカットし、チップ材へ

熱心に説明をいただいた森田工場長

こちらの進栄化成ではエコキャップの収集に対して、ＮＰＯ法人エコキャップ推進協会を通じてポリオワクチン購入の為の寄付金を支払っていますが、実際は収集をしている仲介業者や加工会社等のスタンスに任されており、全国の収集業者全てが寄付を行っているわけではないことを知らされました。世の中で集められたエコキャップは全てが恵まれない世界の子供たちのワクチン受注に貢献していると思い込んでいました。（富士宮地区労福協で収集したものは、ＮＰＯ法人の正式な受領書もあり、ワクチン購入に対して確実に寄与しています。）

今回の視察でエコキャップの再生利用を確認することができ、リサイクルやエコの重要性を再認識するとともに、収集にあたっての分別も疎かにできないことを理解できました。私達の活動も微力ながら役立っていることも証明されましたので、これからも富士宮地区労福協として、エコキャップ活動を今まで以上に積極的に推進していきます。

必見！進栄化成様のＨＰ！

リサイクル活動を共感できます！

当日は忙しい中、工場案内いただいた森田工場長様、ありがとうございました。「限りある資源を繰り返し利用しよう」をモットーに貴社の益々のご発展を祈念いたします。

視察レポート②　里山の再生活動

視察２日目の午前中は宿泊先であるいわき市林業研修センター湯の岳山荘の運営管理団体である「ＮＰＯ法人いわきの森に親しむ会」の松崎理事長以下、グリーンフォレスターのボランティアの皆さんの協力をいただきながら、里山の再生活動を実体験しました。

前日の夜、塚本理事長よりいわき市の被災状況やボランティア活動についてレクチャーを受けました。

里山の再生活動が何故必要なのか？草木の伐採や野焼き等を行うことで自然の回復力や再生力を発揮する為の土台形成を行い、太陽の光や風、水の恵みで自然のバランスを保つことが目的であると理解しました。

松崎理事長の講話

湯の岳山荘に集まった仲間

私達も作業出陣です！

参加役員一同、作業衣装に着替え、ノコギリを持って湯の岳山荘横の丸山公園東側の山林へ集合しました。グリーンフォレスターのボランティアの皆さんにレクチャーを受けながら、３班に分かれて里山再生の伐採作業を行いました。

ボランティアの皆さんからの丁寧な作業説明がありました！

光と風が吹き抜けるように木々の重なっている部分を選定し、いざ伐採へ。日頃、運動不足の私にとっては、大変な重労働となりました。隣りで伐採作業をしていた某役員は手動とは思えない早さで作業をしていました。（凄い、人間チェンソーか！）
午前中一杯で、限られた範囲でありますが、里山再生に一役買うことができました。

作業中の様子①

作業中の様子②

作業終了後の整備された草木

作業終了後の昼食の様子！

放射能測定器を設置して安全確認

湯の岳山荘の隣りにろうきん森の学校がありました！

役員みんなで探索！

里山再生のフローチャート！

視察レポート③　久之浜地区被災地の訪問

視察２日目の午後はいわき市久之浜地区の被災地を訪れました。市久之浜第一小学校横に設立された浜風商店街には震災当時の写真が掲示されており、そこからの復旧、復興に向けた被災地の方々や支援する皆さんの憤りを感じました。

地元商店主達が募り、いわき市の支援を受けて商店街を誕生させました！

コンセプトは「海からの風を引き込み、海と共に生きる」復興の拠点として地域の絆をつないでいる

その後、久之浜の海岸へ向かい、壮絶な津波被害の残した傷跡を目の当たりにしました。前日の夜、宿泊先でＮＰＯ法人トチギ環境未来基地の塚本理事長より、いわき市の震災被害の現状とボランティア活動についてお話を伺っていましたが、スライドとは違い実地で見た景観は被害の恐ろしさを物語っていました。

津波で流された住宅地

海水で立ち枯れした松林

地盤沈下した海岸沿い

当日は復興に向けた花火大会が企画されており、出店や屋台で大変な賑わいとなっていました。現実を受けとめながらも「復興に向けて力強く生きるんだ！」こんなメッセージが私の耳に聞こえてきました。
その後、いわき市中央台のある仮設住宅が立地された住宅街をバスで通りましたが、ここに住まれている被災者の方々が震災前の生活に戻るまで、私達富士宮地区労福協の支援活動は何らかの形で継続していかなくてはならないと改めて強く誓いました。

復興に向けた花火大会と催しが行われていました！

高台にある仮設住宅

労福協の社会貢献活動を深く考えることができた視察であり、参加役員一同で今後の方向性について充分議論を行い、総括をしていきたいと思います。

ＮＰＯ法人いわきの森に親しむ会の松崎理事長や野口さん、塚本理事長他多くのボランティアの皆さんと関わり合うことができ、貴重な体験ができました。今後も富士宮地区労福協の社会貢献活動におけるサポーター役としてご協力お願いします。大変ありがとうございました。

■視察を終えての感想

小林会長 	今回の視察で世の中の偏重に流されていることに気が付いた。特にエコキャップ回収は一般的だが、それがどのような過程を踏んでポリオワクチンになるのか、ペットボトルの蓋が、どのような工程で再生され何に変わるのかなど知らないままエコという言葉だけに反応して何となく自分の意思ではなく回収行動をしていた。また回収された物総てがお金としてＮＰＯに寄付されポリオワクチンや東日本大震災に寄付されるわけではなく、多くの業者が善意で回収した物に対し利益を寄付するわけではなく会社の業績に上乗せしているところが多い事が解った。キャップを仮に回収する場合でも、何を目的にやるのかは考えをもって行動していきたいし協力していかないといけないと感じた。 最後に労福協の社会貢献活動に対する振り返りと今後の進め方についても議論を重ね一定の方向性を導き出し、今後、関わる役員に対し道しるべとなるべき骨子をつくりあげていきたい。

和田副会長 	福島への視察研修は、震災からすでに１年半以上が経過した今、「何か出来る事を」との思いで参加させていただきました。東日本大震災が発生したことはまさかの出来事でしたが、震災の状況はテレビで見ていただけでしたので、改めて現地を直に見たとき、現実に起きたことを実感させられました。復旧・復興があまり進んでいない現状に、地元の方々の心労は計り知れないと思いますが、少しでも現地の方々の役に立つ事に、今後も協力していきたいと思います。
佐野副会長代理 	震災後、東北地方に行くのは初めてでした。実際に津波の被災地に行くとテレビ等で見た光景と同じ荒涼とした更地が広がっていました。それでも現地では元気良く頑張る人達の姿がありました。我々個々の力は小さいですが、力を合わせて少しでも被災地の方々の役に立てるよう何か今後も支援等を行いたいと思いました。
篠原事務局長 	振り返って事務局の役割（怪我なく事故なく、スケジュール通り）進行したことが何より。 進栄化成：分別回収の大切さと愚直な企業姿勢は頭が下がる思いだった。 実作業（里山再生）：気が遠くなるほどの再生期間をイメージできることが大切で、この活動は次世代に自然を守り・育てるを「心」に訴える活動だと思った。 被災地視察：自然の猛威と、復興に向けた想いを持った人の結集にはタダタダ驚いた。しかし、建物が流された所で祭りには、申し訳ないが、少し風化を感じてしまった。 全体を通して、今回の視察を色々な場面を通して労福協会員に伝えて、一人でも多くの方の賛同を得たい。
米山幹事 	視察研修を通して、社会貢献にも色々なやり方がある事、又現地・現物を見る事の大切さを教えられました。被災地の復興にはまだまだ長い支援が必要で、現状を周囲の人に伝えて、出来る事をコツコツやっていきたい。
石川幹事 	エコキャップと里山では全く知らなかったことを教えて頂き、そして、被災地の訪問では本当に地震の恐ろしさ、また、津波の凄さを体験でき、本当に良い経験をこの３日間出来ました。ありがとうございました。
飯室幹事 	被災地視察では、いわき市の久ノ浜を訪れ、家屋が流された後の実際に見る景色には、言葉が出ませんでした。災害復旧にはまだまだ時間がかかりますが、私自身を含め、労福協として協力を呼びかける活動をこれからも続けて行く事を心に誓いました
富田事務局次長 	震災から１年半以上経過しましたが、まだまだハード面が元通りになるには多大な時間を要することは否めない。私達は労福協として心のケアーができる活動を行いたい。富士宮に戻り、今まで取り組んできた社会貢献活動をこれからも永続できるようしっかりとしたレールを引きたい。